

# 終末期がん患者の手掌点状出血 (black spots on palms)

新城 拓也<sup>1,2)</sup>、岡田 雅邦<sup>1)</sup>

1) 社会保険神戸中央病院 緩和ケア病棟

2) しんじょう医院

# はじめに

- 死が差し迫ったときの予後予測は、特別な検査を必要としない、**日々の診察で観察できる徴候**を参考にすることが有用である。
- 終末期がん患者において現在までに知られている所見としては、**意識の混濁、終末期のせん妄、気道分泌貯留（死前喘鳴）、下顎呼吸、四肢のチアノーゼ、脈が触れなくなる**といった徴候がある。
- 我々は、このような徴候の一つとして、**手掌の点状出血**が観察される患者を複数経験したため報告する。
- 報告する症例は全て、治療内容・経過の報告について、本人と家族から書面での同意を得ている。

89歳男性、胃がん肝転移。

Palliative Performance Scale (PPS) 30%の時に、手掌に点状出血を認めた。4日後に死亡。血小板正常 ( $20.9 \times 10^4$ 、出現時)



症例1

67歳、男性、胃がん。

PPS 40%の時に手掌に点状出血を認め経口摂取可能であったが、その5日後に死亡。

死亡の4時間前まで会話可能。血小板減少 ( $5.1 \times 10^4$ 、出現前日)



症例2

52歳男性 腺様嚢胞がん肺・骨転移。

PPS 50%の時に手掌に点状出血を認め、7日後に死亡。

O<sub>2</sub> 2L/分 投与。血小板正常 ( $14.5 \times 10^4$ 、出現時)



症例3

83歳女性 胆嚢がん肝・腹膜転移。

PPS 20%の時に手掌に点状出血を認め、4日後に死亡。血小板未測定。



症例4

# 考察

- 提示した4症例は、手掌点状出血が出現してから**1週間以内**に死亡した。
- 過去にはこの皮膚所見の**報告はない**。
- 特徴は、**1) 急に現れる、2) 小さく、黒色で、円形、3) 左右対称に、手掌、手指の屈側**に出現する、**4) 出血はない**
- 鑑別診断
  - DICの皮膚所見とは、体幹に出現しない、2mm未満の皮疹であることから異なる特徴をもつ。
  - 薬疹とは、皮膚の分布、紅斑ではないことから鑑別される。
  - 血小板減少による紫斑とは、分布、皮疹の大きさから鑑別される。
- 手掌点状出血 (palmaer petechiae) に関する過去の報告では、外傷が原因の症例報告のみ。

## Palliative Performance Scale

	起居	活動と症状	ADL	経口摂取	意識レベル	
100	100% 起居 している	正常の活動が可能 症状なし	自立	正常	清明	
90		正常の活動が可能 いくらかの症状がある				
80		いくらかの症状はあるが 努力すれば正常の活動が可能				
70	ほとんど 起居 している	何らかの症状があり 通常の仕事や業務が困難	時に 介助	正常 または 減少	清明 または 混乱	
60		明らかな症状があり趣味や家事を 行うことが困難				
50	ほとんど座位か 横たわっている	著明な症状があり どんな仕事もすることが困難	しばしば 介助	減少	清明 または 混乱 または 傾眠	
40	ほとんど 臥床		ほとんど 介助			
30	常に臥床		全介助			減少
20						数口以下
10						マウスケ アのみ



- PPSと予後の関係

PPS %	mean days	95% CI
10	2	1-2
20	6	3-8
30	18	14-22
40	36	29-43
50	51	40-62
60	64	26-101

症例1 PPS 30%

症例2 PPS 40%

症例3 PPS 50%

症例4 PPS 20%

# 結論

- 手掌点状出血 (black spots on palms) は、
  - 終末期がん患者において死が差し迫ったときに出現する特異的な徴候である可能性がある。
  - 予後1週間以内の徴候かもしれない。

論文掲載誌 Shinjo, T, Okada, M, Palmar petechiae (black spots on palms) in terminally ill patients with cancer: a sign of impending death., J Palliat Med, 13, 5, 615-618, 2010